

## 「自分を信じ、仲間を信じ、奇跡を信じる！」～選手激励会～

7月10日（木）に選手激励会が行われました。吹奏楽部の演奏に乗って、各部の堂々たる入場行進の後、校長激励の言葉、選手宣誓、各部の決意表明と続き、2年生の応援団を中心とした後輩からの応援と全校での校歌斉唱で会を閉じました。選手宣誓や、決意表明からは、部活動の総まとめとしての大会やコンクールに臨む3年生の熱い思いが伝わってきました。また、応援団の気迫に満ちあふれた演技に、3年生の気持ちも一段と引き締まりました。



勝負はやってみなければわかりません。だからこそ慢心せず、あきらめず、**自分を信じ、仲間を信じ、奇跡を信じて**、最後の最後まで頑張り抜く明中生であってほしいと思います。「**奇跡は信じる者の元のみ訪れる。**」とも言います。崖っぷちに立っても、最後の1秒、1球、1点まで全力を出し切ってほしいと思います。  
校長激励の言葉より 抜粋



僕は今までの集会で、明中の校歌を歌う時、いつも「声が小さいな」と思っていました。しかし、今回の激励会では、大きな歌声で**僕たちに真剣にエールを送ってくれるのが伝わってきて**とてもうれしかったです。そして、応援団のみなさんの**力強く迫力のある声と動きに勇気をもらいました**。みなさんの声を背に受けて、試合に全力を尽くします。  
3-3 卓球部部长

僕は応援団長をやり、**前に立つことのすばらしさを学びました**。練習はとても辛く、何度も声がかれたけど、**その苦しさこそがあの舞台を終えた時のすがすがしい達成感を生んでくれた**と思います。僕は、応援団長をやってよかったと思いました。また、仲間の大切さも知ることができました。**応援団のみなが後ろにいてくれることで自信がつき、堂々と演技することができました**。自分をもっと成長させるためにも、**仲間を大切に、色々なことに挑戦していきたいです**。  
2-2 応援団長

僕は応援団員として、14人のメンバーとともに、暑い中でも厳しい練習をしました。覚えることがたくさんある中で、**僕たちは日々の努力で完成度を上げていきました**。本番では「**3年生に頑張ってもらいたい。**」と願いながら、これまで努力してきたことを胸に、最高の演技ができました。僕は太鼓でしたが、太鼓でも伝えようと、思いっきりたたき、僕が応援をリードしようと思いました。  
2-1 応援団員

私は、先輩達の最後の大きな大会で、**優勝して喜んでもらえるように応援をしました**。応援をやって成長したと思ったことは、人前で堂々と演技ができたことです。私は人前に立つことがあまり好きではありませんでした。でも応援団をして、**積極的に自分から行動することができるようになりました**。応援ではリハーサルの時よりも大きな声が出せたし、振り付けも完璧にできました。  
2-3 応援団員

僕は、最初はあまりやる気もなく、応援団に取り組んでいました。だけど、**練習の時にみんなが必死に取り組んでいる姿を見て、やる気になりました**。それから声を出すようになりました。しかし、股関節を痛め、病院に行って練習を休むこともありました。だから、**人一倍練習しようと団員に相談したり一緒に練習したりしました**。1年生に指導に行った時も、**まじめにやってくれて助かりました**。仲間のおかげで最後までやれました。「**ありがとう。**」  
2-4 応援団員